

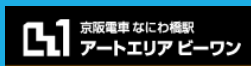


大阪大学リサーチクラウドカフェのご案内 「研究者と話そう！」

研究のプロフェッショナルから話を聞く「大阪大学リサーチクラウドカフェ」は、研究機関の大規模ネットワークである「大阪大学学術研究機構会議」がサポートしています。平成29年度は以下のとおり開催しますので、お気軽にお立ち寄りください。

定員／申込方法：40名（事前申し込み不要・途中入退場自由）

会場：アートエリアB1 京阪電車中之島線「なにわ橋駅」地下1階コンコース
（地下鉄「淀屋橋駅」「北浜駅」から徒歩約5分）



「脳で働くタンパク質、脳を調べるタンパク質」

11月8日(水) 19:30~20:30

ゲスト：大阪大学 蛋白質研究所 教授 足田 貴俊

足田教授は、記憶や計算といった脳の働きや、脳そのものの研究に取り組む医学の研究者です。今回は、足田教授の取り組む研究の中から、脳で働くタンパク質、脳を調べるタンパク質についてお話を伺います。

「チューブ構造を持つナノサイズ酸化チタン光触媒とその展開」

11月29日(水) 19:30~20:30

ゲスト：大阪大学 産業科学研究所 教授 関野 徹

関野教授は、新たな機能を持つセラミックスや無機材料などの構造・機能設計と創製に詳しい材料科学者です。今回は、関野教授の取り組む研究の中から、簡単な化学合成法により作製でき、ナノメートルサイズのチューブ構造を持つ光触媒として有名な酸化チタン材料「チタニアナノチューブ」について、その構造や光化学特性を含む基礎物性に始まり、多様な物質とのハイブリッド化例と、環境浄化や水光分解光触媒などへの展開例、さらには生体医療材料への展開を視野に入れた研究成果について紹介します。

「ガラスの物理の新展開：ランダムにぎっしり詰め込まれた粒子たちの意表をつく挙動」

12月6日(水) 19:30~20:30

ゲスト：大阪大学 サイバーメディアセンター 准教授 吉野 元

吉野准教授は、統計力学など理論物理学とスーパーコンピュータに詳しい物理学者です。今回は、最近発見された高密度ガラス状態のパラドックス：柔らかくも固くも振る舞う奇妙な性質について紹介します。また「吹きガラス」から「砂山」まで、身近にある様々なガラス状態（アモルファス固体）の示す興味深い現象について物理学の立場から議論します。

「極限強磁場でみるスピンと磁性」

12月13日(水) 19:30~20:30

ゲスト：大阪大学 理学研究科附属先端強磁場科学研究センター 准教授 鳴海 康雄

鳴海准教授は、自らで開発している非常に強力な磁場発生装置を用いて、強い磁場における物質の特異な振る舞いについて研究しています。

今回は、電子が持つ量子力学的な内部自由度である「スピン」と、それらが膨大な数（10の23乗個程度）集まることで現れるマクロな物質の性質「磁性」をキーワードに、日常生活では経験することのない50テラを超える極限的な強磁場の世界について紹介します。

主催 大阪大学学術研究機構会議、アートエリアB1（大阪大学+NPO法人ダンスボックス+京阪ホールディングス(株)）
協力 大阪大学21世紀懐徳堂

